

新潟県食肉センター再編検討委員会設置要綱（案）

（目的及び設置）

第1条 新潟県及び食肉関係者等は、新潟県内の食肉センターの再編の具体化を協議し、新潟県食肉センター再編基本構想（以下「基本構想」という。）を策定するため、新潟県食肉センター再編検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

（委員）

第2条 検討委員会の委員は別表のとおりとし、必要に応じて追加・入れ替えができるものとする。

（任期等）

第3条 委員の任期は基本構想の策定までとする。ただし、基本構想の修正が必要となった場合は、修正が完了するまで任期を延長する。

（会議）

第4条 検討委員会の会議（以下「会議」という。）は、事務局である新潟県農林水産部食品・流通課長が招集する。

- 2 会議の進行は座長が務めることとし、座長は委員の互選によって定める。
- 3 座長は、会議の議事進行を行うとともに、検討委員会を代表し、必要に応じて意見の取りまとめを行う。
- 4 委員が会議に出席できないときは、委員の指名する職員が、その職務を代理することができる。
- 5 会議は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、及び議決することができない。
- 6 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。

（委員以外の者の出席等）

第5条 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、及び意見を求めることができる。

（庶務）

第6条 検討委員会の庶務は、新潟県農林水産部食品・流通課において処理する。

（雑則）

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、座長が検討委員会に諮って定める。

附則

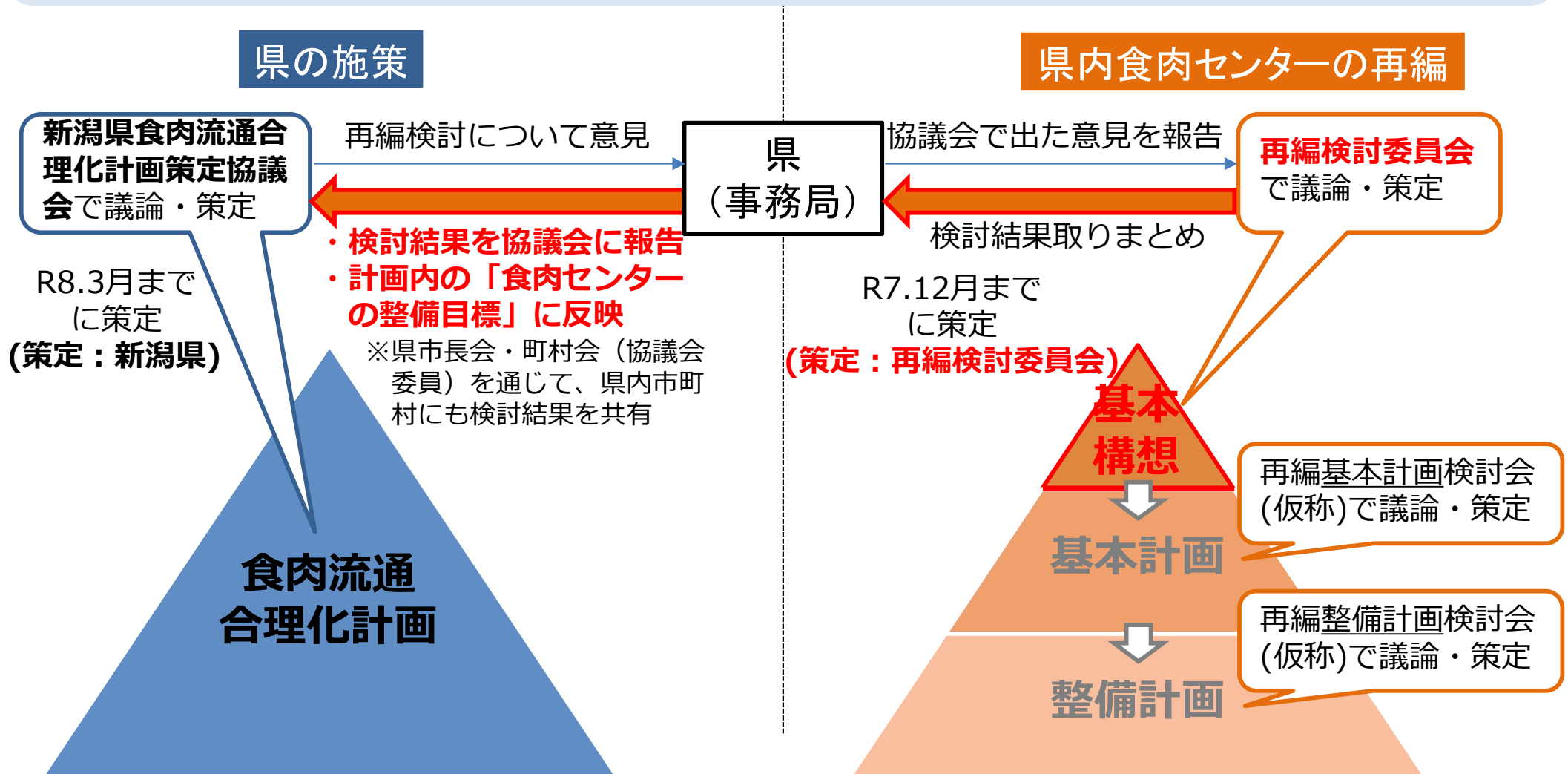
- 1 この要綱は、令和7年3月27日から施行する。

別表

	団体・所属名	役職
1	新潟食料農業大学	学長
2	公益財団法人日本食肉生産技術開発センター	元専務理事
3	公益財団法人新潟ミートプラント	理事長
4	株式会社長岡食肉センター	代表取締役
5	全国農業協同組合連合会新潟県本部畜産部	部長
6	新潟県養豚協会	会長
7	新潟県肉用牛経営者会議	会長
8	新潟県酪農業協同組合連合会	代表理事会長
9	新潟県養豚経営者会議	会長
10	村上牛生産者協議会	会長
11	株式会社いそべ	代表取締役
12	株式会社ウオショク	代表取締役社長
13	有限会社西村商店	営業統括部長
14	株式会社富士フィード&ミート	専務取締役
15	株式会社マツイフーズ	代表取締役会長
16	株式会社よねー	代表取締役
17	株式会社ナカショクミートフーズ	代表取締役
18	株式会社三国	代表取締役社長
19	新潟市農林水産部食と花の推進課	課長
20	新潟県農林水産部畜産課	課長

再編検討委員会の設置イメージ

- 県内食肉センターの再編検討は再編検討委員会で議論・決定
- 合理化計画内の「食肉センターの整備目標」には、令和7年に策定する基本構想の概要を記載
- 基本構想の策定後、再編基本計画検討会(仮称)、再編整備計画検討会(仮称)と段階的に会を移行していき、より具体的な再編計画について議論・策定



● R5.3.27 新潟県食肉流通合理化計画策定協議会準備会(第1回)で合意

食肉センターのあり方(目指すべき方向性)

県民に安全で新鮮な県産食肉を安定的に供給するとともに、本県畜産の振興に資するため、
本県に食肉センターは必要

1. このため、次のとおり将来の本県食肉センター体制の具体化を目指す。

【運営主体】

- 行政からの繰入金に頼らない、**独立採算可能な運営体制**を構築する。
 - ① と畜部門だけではなく、収益性の高い加工部門等を一体的に行う運営体制
 - ② 施設利用者等との幅広い協議による民間事業者の選定、誘致

【施設】

- 新潟及び長岡の**機能を1か所に統合**する。
 - ① 再編までの機能維持に向け、協力体制を確保
 - ② 生産者、施設利用者等への説明、意見聴取を実施

【機能】

- 本県の現状を踏まえた機能付与を検討する。
 - ① 必要な衛生管理体制の構築
 - ② 輸出機能付与は採算性を踏まえ、慎重に検討

2. 新しい運営体制へ引き継がれるまでは、次のとおり連携体制を維持する。

- 施設機能の統合まで、設置者の責任で現行施設の機能維持を図ることを基本に、関係者の協力体制を継続
 - ① 冷凍冷蔵庫改修は、新潟市食肉センターの機能維持の観点から優先して対応
 - ② と畜頭数の確保、施設維持に対する支援体制を継続

食肉センター経営の安定を図るためには、

1日当たり処理能力は概ね1,400頭以上（肥育豚換算）が必要

農林水産省「食肉の流通合理化を図るためのガイドライン」

〔現在のと畜許可頭数（1日当たり処理能力）〕

新潟市食肉センター	1,020頭
長岡食肉センター	720頭

食肉センター規模別収支

食肉センターを①牛2千頭、豚30万頭処理規模（新潟・長岡再編統合レベル）、②牛1千頭、豚10万頭処理規模（長岡食肉センターレベル）のと畜及び内臓・部分肉処理、販売に取り組んだ場合の経営収支を試算。

《収支試算結果》

①の規模では収支は黒字となるが、②の規模では、赤字となる。

＜有識者の見解＞

細見隆夫氏（（公財）日本食肉生産技術センター・元専務理事）

- ・ 牛と畜・解体作業は、収入が費用に比べて低く、欠損が出る状況。と畜料金が処理コストに見合った水準になっていないため、処理コストの低減化のみでは経営改善は困難。
- ・ 豚の場合、一定規模以上でと畜解体部門でも利益が出る状況



食肉センターの健全な経営のためには、県内1カ所への統合が望ましい

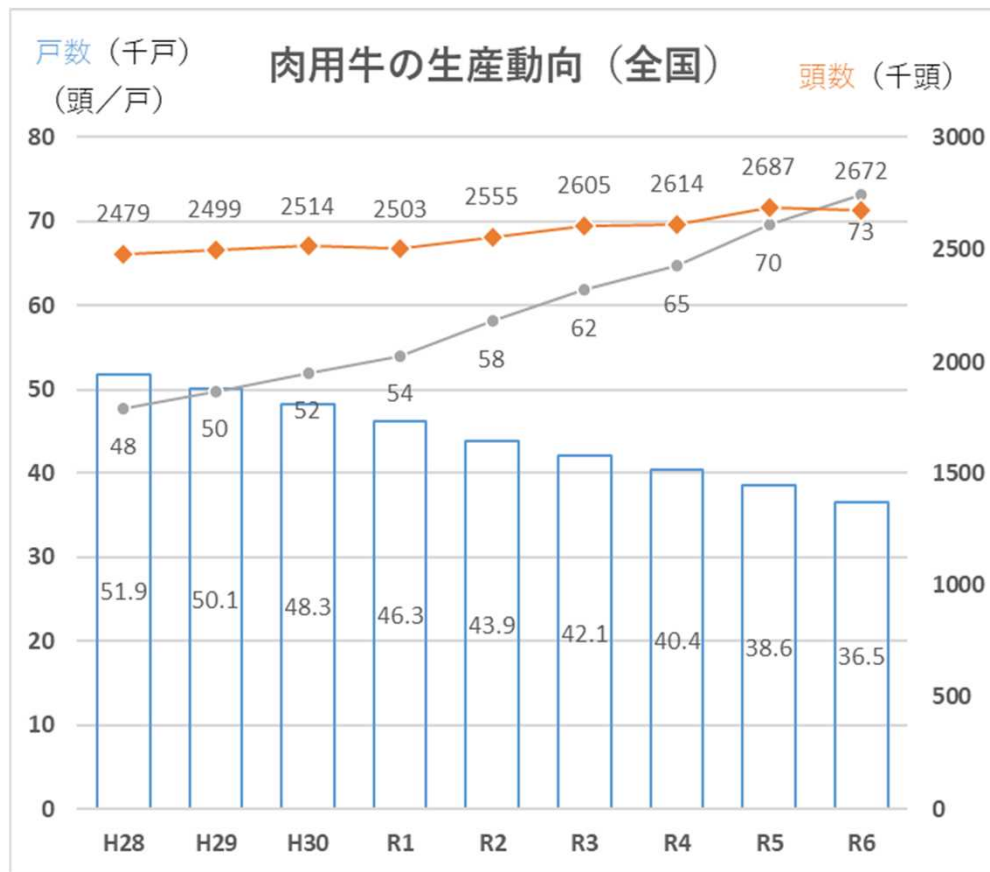
本県の畜産を取り巻く状況

令和7年3月27日 新潟県農林水産部食品・流通課、畜産課

家畜生産動向（肉用牛）

全国

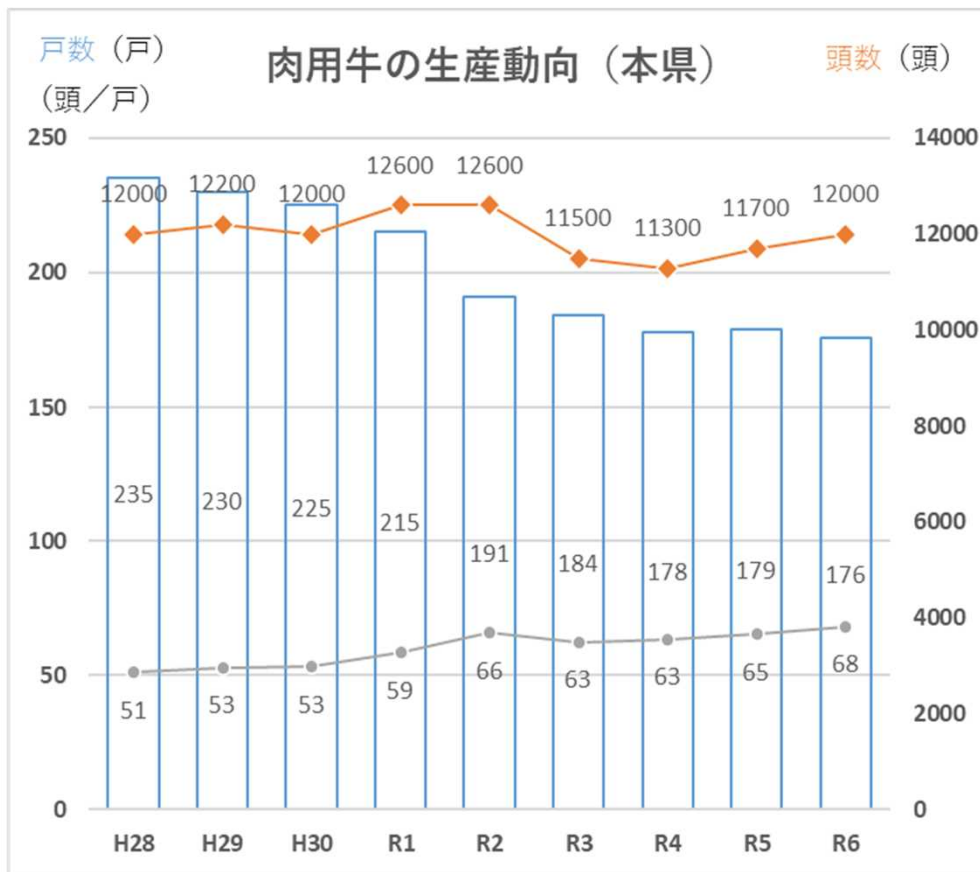
- ・飼養戸数は減少傾向。主に小規模層で減少。
- ・飼養頭数はH28から増加傾向だったがR6は微減。
- ・飼養規模拡大が進展。



資料：農林水産省「畜産統計」（各年2月1日現在）

新潟県

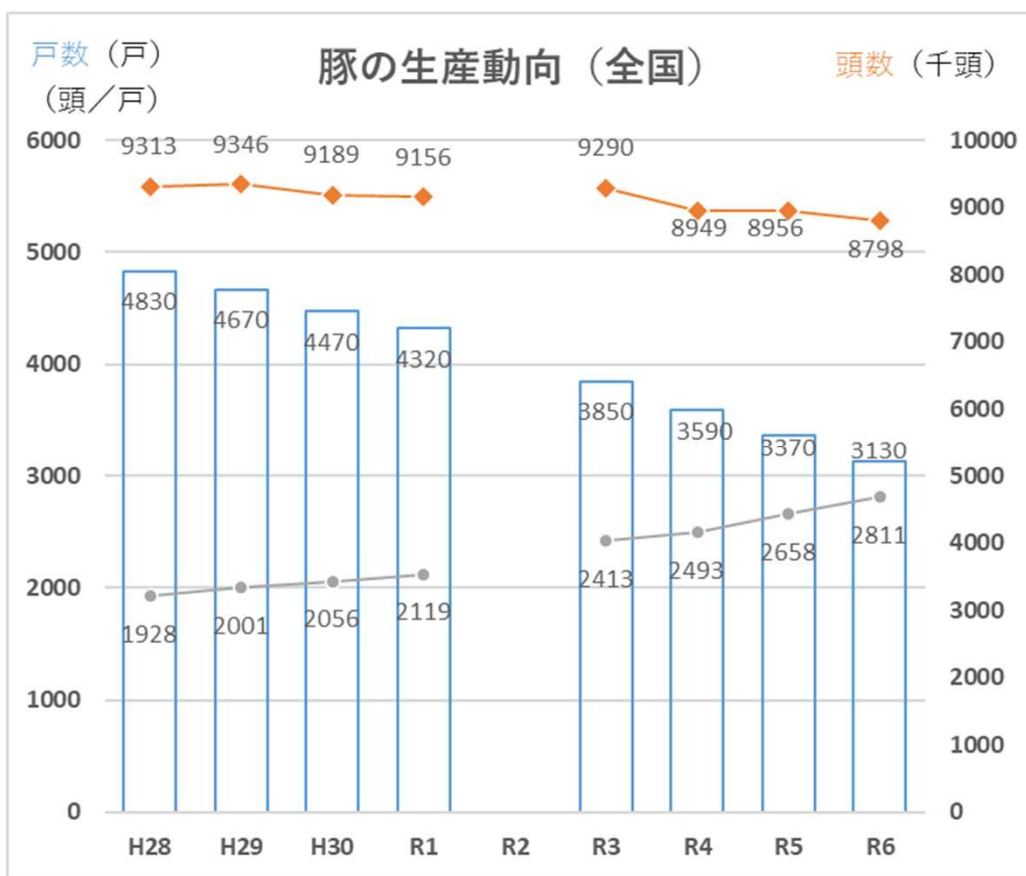
- ・飼養戸数は減少傾向だったが近年は維持。
- ・令和2～4年にかけて、大規模1経営体が乳雄肥育を廃止したことにより頭数が減少。その後、和牛増頭対策等により増加。
- ・飼養規模はやや拡大傾向。



家畜生産動向（豚）

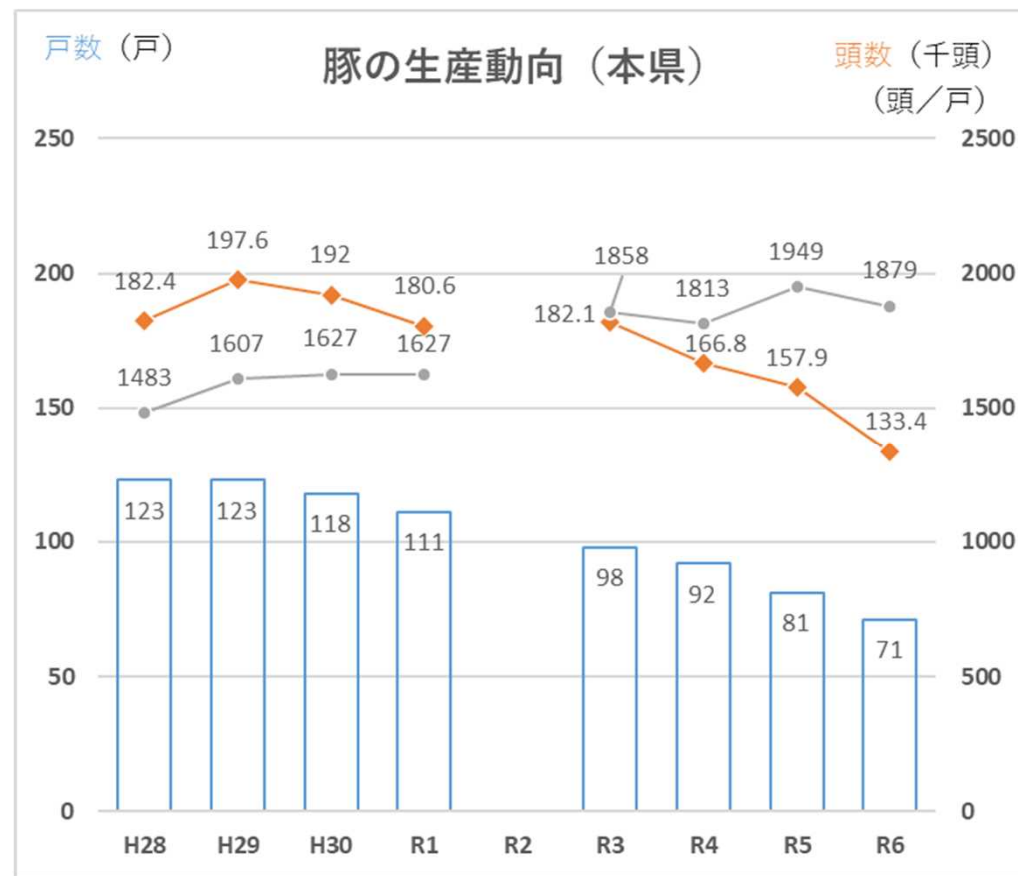
全国

- ・飼養戸数及び飼養頭数は減少傾向。
- ・飼養規模拡大が進展。



新潟県

- ・飼養戸数及び飼養頭数は減少傾向。
- ・飼養規模拡大が進展。



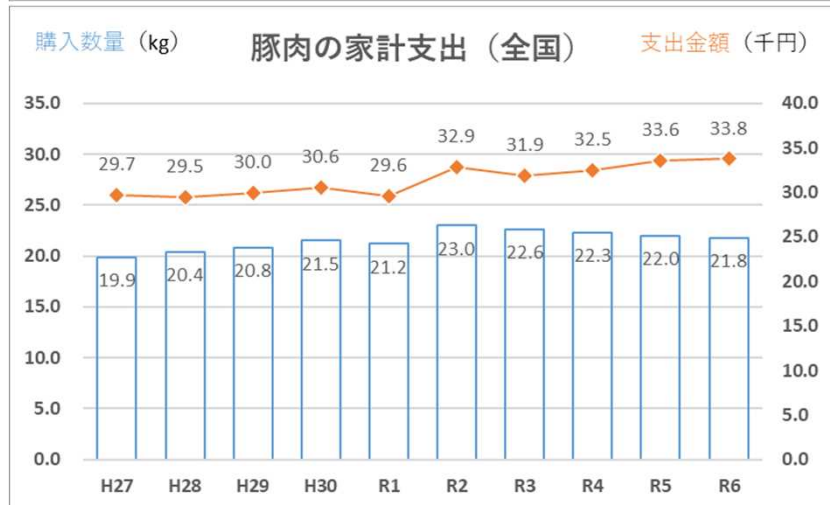
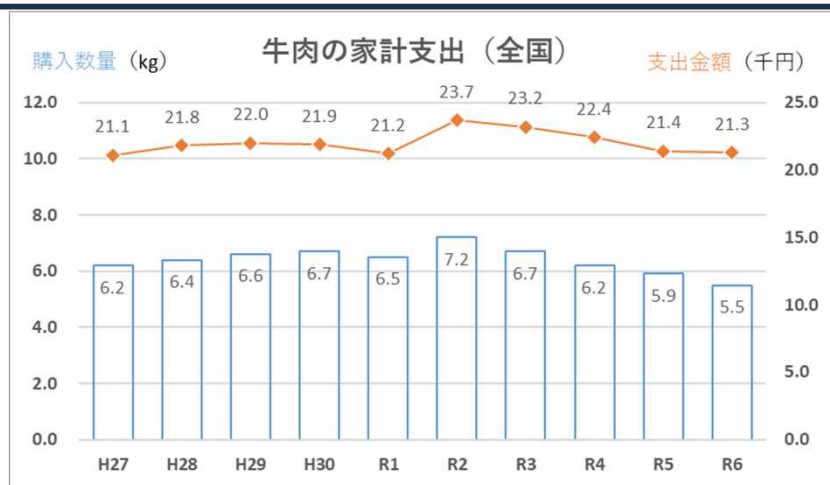
資料：農林水産省「畜産統計」（各年2月1日現在）

注：令和2年は世界農業センサス調査年であるためデータが無い

食肉消費動向

全国

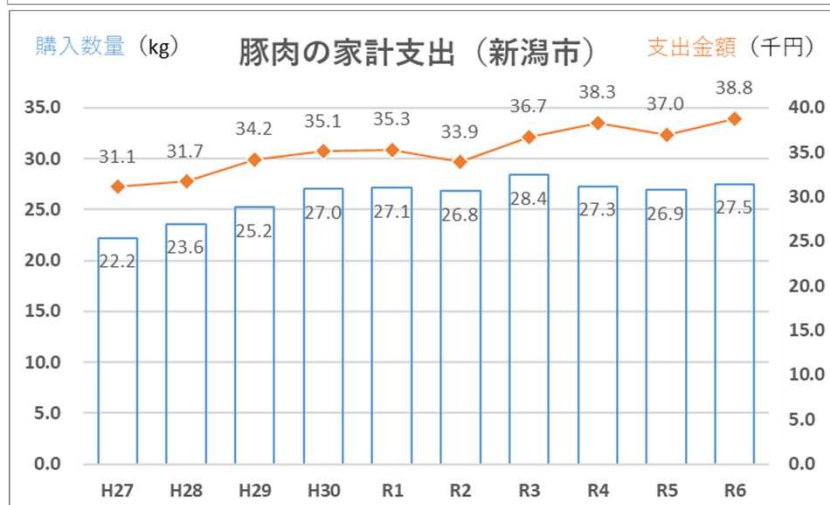
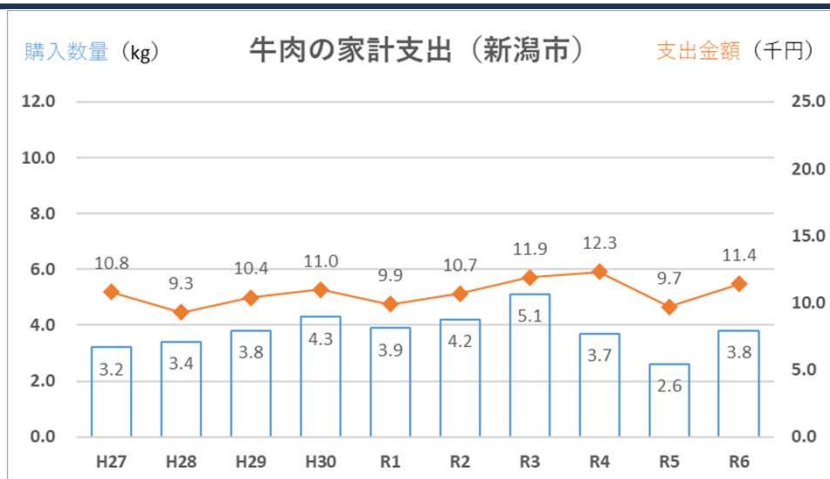
- ・牛肉の消費量は減少傾向、支出金額は横ばい。
- ・豚肉の消費量はやや増加、支出金額は増加傾向。



新潟市

都道府県データなし

- ・牛肉の消費量、支出金額は概ね横ばい。
 - ・豚肉の消費量、支出金額は増加傾向。
- ※全県庁所在地・政令市の中で、牛肉は低い方から2位、豚肉は高い方から1位



資料：総務省「家計調査」（年間）

1世帯における牛肉・豚肉の購入数量、支出金額 ※1世帯：2人以上

県内の生産者の状況（肉用牛）

戸数の約1割の乳牛・交雑牛飼養農家が飼養頭数の約5割を占め、和牛飼養農家は小規模が中心。

階層	～19頭	～49頭	50頭～	合計
戸数	101戸 (57%)	33戸 (19%)	42戸 (24%) うち乳・交雑 15戸(9%)	176戸 (100%)
頭数	750頭 (6%)	1,200頭 (10%)	10,050頭 (84%) うち乳・交雑 5,612頭(47%)	12,000頭 (100%)

資料：農林水産省「畜産統計」(令和6年2月1日現在)

乳用種、交雑種とも県外出荷の割合が高く、和牛飼養農家は小規模・高齢農家の廃業が予想される。

出荷先	県内	県外
乳用種	25%	75%
交雑種	38%	62%
黒毛和種	54%	46%

資料：県畜産課調べ(令和5年度 家畜改良センターデータ)

県内の生産者の状況（豚）

1,000頭以上の階層が戸数の半数、頭数の8割超を占め、大規模経営による生産構造となっている。

階層	～499頭	～999頭	1,000頭～	合計
戸数	12戸 (19%)	17戸 (27%)	34戸 (54%)	63戸 (100%)
頭数	3,300頭 (3%)	16,900頭 (13%)	110,300頭 (85%)	130,500頭 (100%)

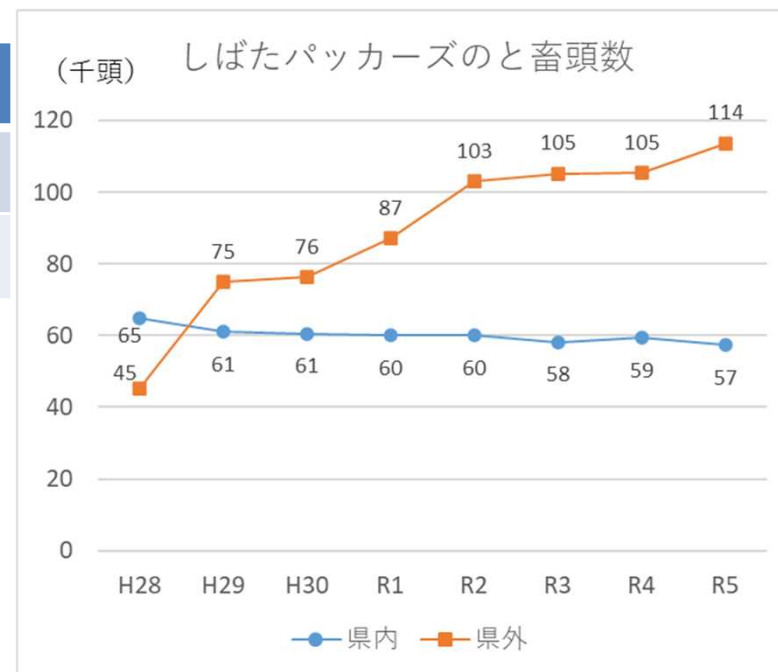
資料：農林水産省「畜産統計」（令和6年2月1日現在）

注：肥育豚なし農家除く

県内肥育豚の9割は県内でと畜されているが、県内と畜の3割が県外から搬入されており増加傾向。

	県内	県外
肥育豚出荷先	89.9%	10.1%
と畜搬入元	67.8%	32.2%

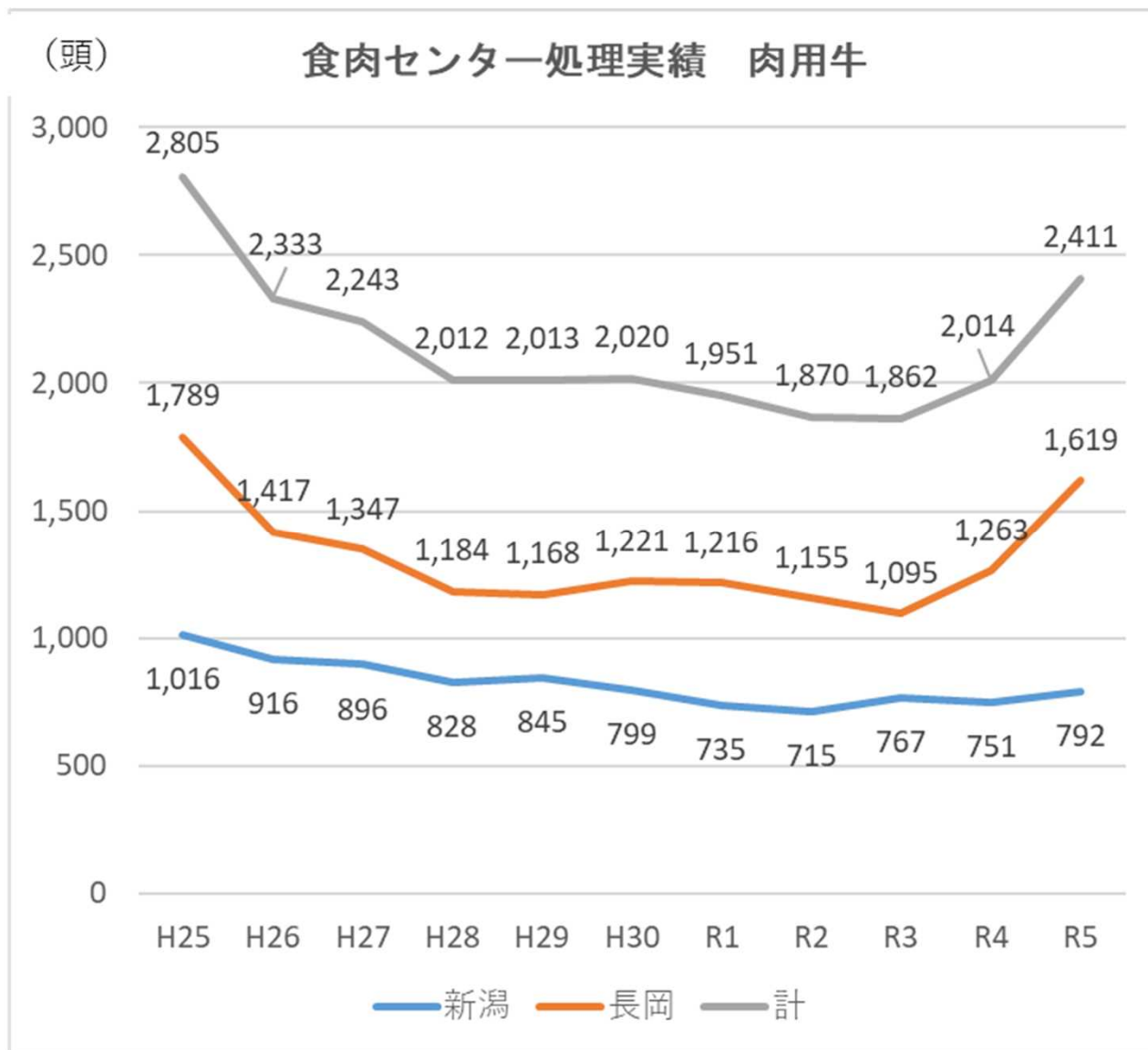
資料：県生活衛生課調べ（令和5年）



県内のと畜状況①

肉用牛

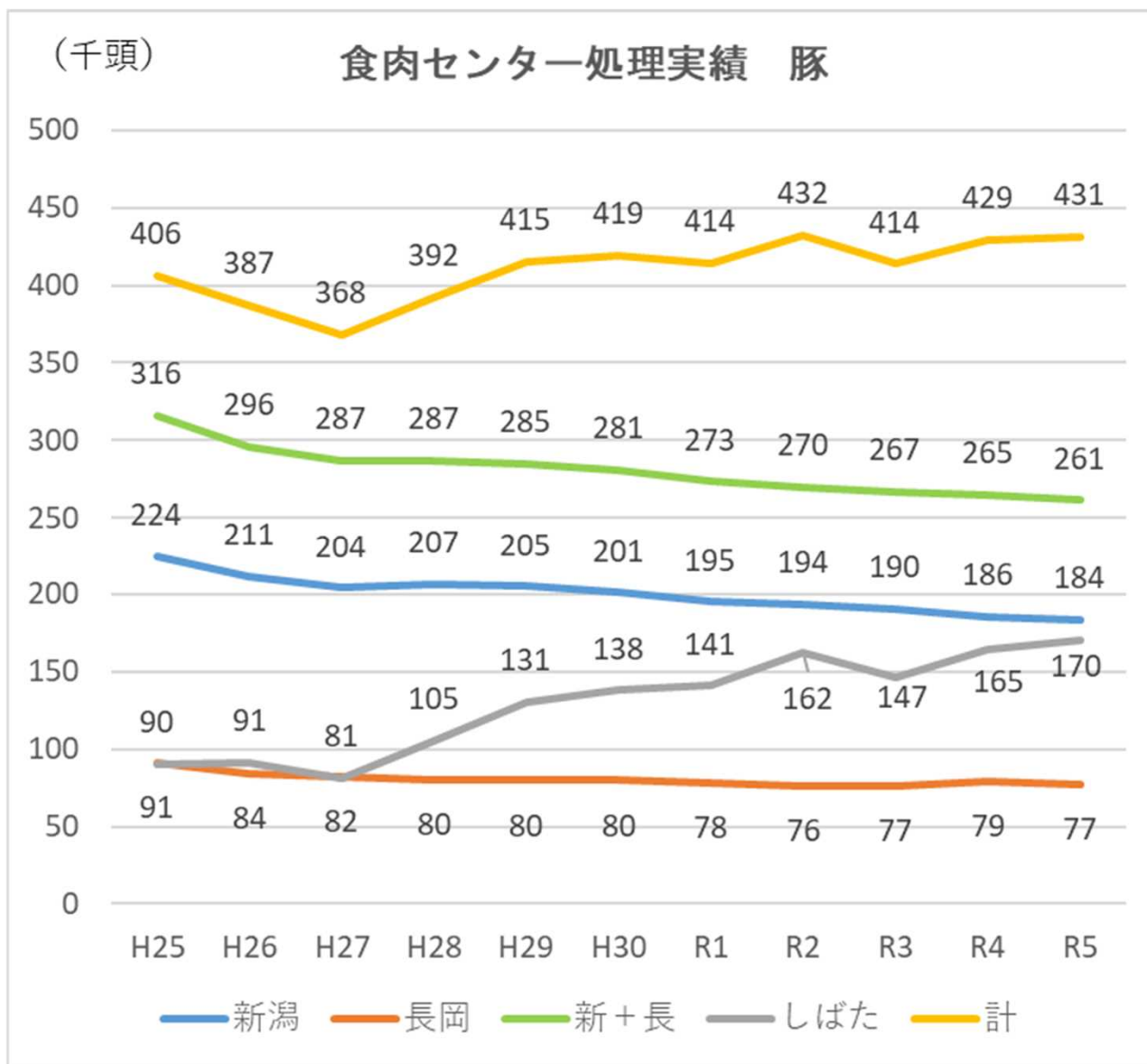
令和3年ごろまでは減少傾向であったが、その後増加傾向にある。



県内のと畜状況②

豚

新潟、長岡ともやや減少傾向にある一方で、しばたは増加傾向にある。



本県の畜産振興計画

肉用牛

【国】酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針

R7.3公表予定

- 5年後の生産目標：現状の生産量並みとする（R5年現状は枝肉50万 t ※1）
- 長期的な姿：現状の生産量をやや上回る水準を検討

→ 【県】新潟県酪農・肉用牛生産近代化計画

R8.3公表予定

- 生産目標：令和7年度に策定予定

豚

【県】新潟県総合計画(案)

R7.2時点

- 令和4年現状(334千頭出荷)並みとする積算（R5年現状は324千頭※2）

※1 農林水産省「畜産物流通調査」

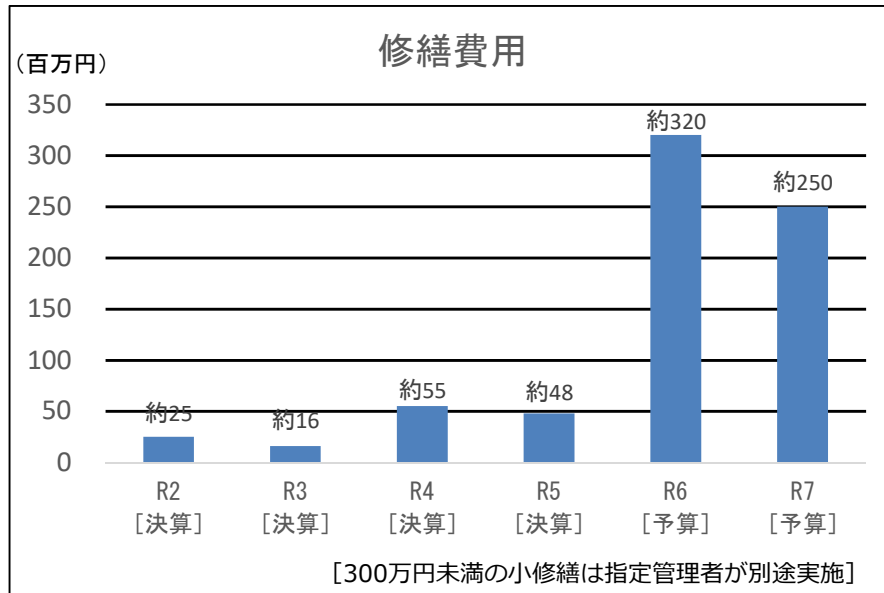
※2 県「家畜生産実態調査」

施設の現状

■施設の老朽化の進行

●施設の修繕費用が増大

- ▶築後31年が経過（H5.4稼働）し、市で実施する規模の大きい修繕が増加



※上記の修繕費用に冷凍冷蔵設備改修事業費は含まず
 ※冷凍冷蔵設備改修事業（R3～6 約1,035百万円）
 国の特定フロン使用規制（生産中止）による更新対応
 =R3あり方検討会で示された「目指すべき方向性」に沿い、
 現行施設の機能維持

- ▶修繕を予定している機械が工事着手前に故障し、と畜業務が停止してしまう事例も発生。
 （R7予算にて修繕を予定している大貫用コンベアが、R6年度中に故障し、応急措置を実施）

施設の今後

■老朽化が加速

●施設修繕費用は今後も増大する見込み

- ▶緊急性の高い修繕が多数有り
 - 〔 早急に対応が必要な改修 概算 約21億円 〕
 - 〔 老朽化部分全体の改修 概算 約60億円 〕
- ▶能登半島地震による表面化していない要修繕箇所の存在も想定される。
 （実際に、給水管の漏水や排水管の損傷など、半年～1年以上経過した後に、認知された損傷も有り）
- ▶と畜を長期間休業（=食肉流通が停止）できない施設の性質上、改修実施が困難な部位もある。
 限られた期間では実施可能な修繕が限定され、老朽化を食い止めることができない。

現施設の長期的な利用は困難

老朽化の一例

■大風による焼却炉の煙突部折れ（先端部折れ）



■劣化が著しいと畜機械



■天井換気ガラリ（吸気・排気）の落下



新潟市食肉センターの現状と今後について[経営]

経営の現状

■ 厳しい財団の経営状況

● 市から財団への経営支援（R4以降）

（公財）ミートプラントの経営状況（正味財産増減計算書より抜粋） 単位：千円

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5-R1
経常収益	616,755	616,470	600,412	635,211	642,959	26,204
うち新潟市指定管理料	177,586	176,718	174,005	175,052	191,982	14,396
うち新潟市経営支援				37,495	36,560	36,560
経常費用	615,751	629,110	625,803	630,487	648,533	32,782
うち光熱水費	102,185	100,161	113,006	136,566	134,927	32,742
経常増減額	1,004	-12,640	-25,391	4,723	-5,575	-6,579
正味財産	118,282	105,643	80,251	84,975	79,440	-38,842

※千円未満を四捨五入のため、増減は合わない場合がある。

● 主な要因

▶ 施設の小修繕費用の増加（指定管理者にて実施する小規模修繕）

小修繕費用 （千円）	H27	H29	R1	R3	R5
	約27,000	約38,000	約41,000	約48,000	約49,000

→ 81%増 (対H27比)

▶ 光熱水費の高騰継続

光熱水費 （千円）	H27	H29	R1	R3	R5
	約95,000	約100,000	約102,000	約113,000	約135,000

→ 42%増 (対H27比)

▶ と畜頭数の減少（豚料金換算）

と畜頭数 （頭）	H27	H29	R1	R3	R5
	約211,000	約210,000	約200,000	約193,000	約187,000

→ 11%減 (対H27比)

経営の今後

■ 早急な経営改善の実施

- 経営改善には、と畜手数料の値上げも方法の一つであるが、生産者（新潟市外搬入約9割）の負担増加が懸念

令和5年度市町村別搬入数（豚）

市町村	搬入頭数	搬入割合
新潟市	18,867	10%
新潟市	42,904	24%
村上市	51,721	28%
県内その他	43,432	24%
山形県	23,037	13%
県外その他	1,694	1%
合計	181,655	100%

何らかの経営支援や、手数料改定等を行わないと
近い将来、経営が立ち行かなくなるリスクが高まっている

と畜頭数の推移（豚料金換算）

